

横須賀市議会議員

長谷川 昇

市政報告



はせ
長谷川 昇
どん はせがわ のぼる

2015年4月～横須賀市議会議員二期目当選

所属：教育福祉常任委員会 議会運営委員会

等所属会派：「研 政」

事務所：〒238-0012 横須賀市安浦2-33-1-102

TEL：080-4383-1633 fax 046-854-9529

E-Mail:hasedon2@gmail.com

はせどんホームページ

<http://hasedon.info/>

◎9月議会報告 次の3点について市長並びに教育長に一般質問しました。

◎教職員の多忙化について

質・教員の多忙化は緊急事態。

昨年の実態調査結果を受け、市教委は対策を講じたのか。

答・現在検討委員会をつくって検討している。今年度中に具体的な手立てを示したい。

質・鎌倉市では放課後や休日に学校にかかる電話をコールセンターに回し、業務の軽減する対応を始めた。横須賀では対策を考えているか。

答・それも有効な対応策と考える。他市の状況も見ながらどのような取り組みが効果的か検討していきたい。



質・北海道地震では電源喪失によって大変な事態になった。HGP震災パルクシステムというプロパンガスを使った備蓄型のシステムがある。震災時には、電気も、煮炊き、空調にも使え、震災で供給が遮断されることがないなどメリットが多い。また、今後建設予定の給食センターなどでも活用を考えたらどうか。

答・設置費用、ランニングコストなど費用対効果も含め検討していきたい。

◎米軍基地内の避難訓練について

質・米軍基地内で、全体として十分な避難訓練がされていない。多くの市民が働いていることを考えれば、市民の安全を守る観点から、米軍並びに、防衛施設庁に市として要請する必要があるかどうか。

答・横須賀市としても市民の安全安心を図るのは当然のこと。機会を見て意見していきたい。

◎震災の対応について

◎うわまち病院の移転について



8月21日、横須賀市は、二病院体制を維持する方針を示しました。うわまち病院の現地建て替えは、①進入路が狭いこと②うわまち病院の用地の一部が土砂災害危険区域のイエローゾーンに指定されたことなどから現地での建て替えは困難として、移設の方針を示しました。移設場所については、今年度中に結論を出すとしています。

私たち議員有志は、城西大学伊闇教授に「横須賀2病院のあり方」を研究調査で依頼し、10月1日、研究結果の報告にあわせて講演を企画しました。その中では、①「市民病院は現地での堅持が望ましく、脳外科を強化することが必要。（横須賀西地区は、脳出血の際の医療の60分かかる地域のため強化が急務）②うわまち病院は市内の地域バランスを考え、現在の場所よりも「市内の南西部に移す」ことが医療体制のバランスを考えたときにより現実的、③現地建て替えは、コストがかかることなどの報告がありました。

横須賀市がん克服対策条例が可決しました。(10/9)

議員提出議案として「横須賀市がん克服条例について」が提案され、全会一致で可決されました。今回の条例は第8条において、多くの胃がんの原因となっているピロリ菌を除去することをすすめています。具体的には、ピロリ菌検査を市内中学校二年生対象にして市費負担でおこなうことも示しました。私たちの会派では、胃がんだけないがん全体に対しての取り組みも包括すること、現場負担の軽減することなど意見反映をしました。また、今回の条例は平成31年4月1日から施行されます。

☆コラム☆ 「横須賀の夢・西地区の夢」



2014年1月、「横須賀市は人口減少数で日本1」というニュースが飛び込んできた。「人口減少ショック」であった。谷戸地域の人口減少は深刻で、横須賀の空き家は30,000軒を超える。また、2018年の地価下落率では、全県のワーストに横須賀の地名が並んだ。少しネガティブな記事が気になる。▼しかし、全国的に見れば「横須賀」のもつボテンシャルが低い訳ではない。

「横須賀」の知名度は全国の数ある自治体の中で、上位に位置する。三方海に面した三浦半島。「横須賀」のイメージである「海」は子どもから高齢者まで、どの年代においても魅力的。軍港のイメージの強い東海岸と、自然豊かなおいしい魚や野菜が豊富な西海岸。▼そういった中では、西地区の農漁業とそれに連携した地域の活性化、さらに求心力のある観光スポットをつなぐことが横須賀を元気にする鍵でもある。

すでに昨年の横須賀の集客状況の一位は「ソレイユの丘」、二位は「すかなごっそ」である。観光の観点からも西地区がじわりと牽引している。▼「夢」はこんなことできたらいいなと思うこと。そういった事例のひとつとして、大楠観光協会では「芦名・淨楽寺にある運慶仏を国宝に」という「夢」を提案している。運慶の真仏（本物と認定されている仏像）は31体。そのうち5体が芦名・淨楽寺にある。阿弥陀三尊に不動明王、毘沙門天は800年の時を超えて、和田義盛が運慶と仏師10人つくらせたもの。昨年、東京国立博物館で開催された「運慶展」では連日の超満員となった。専門家の意見では、最も国宝に近い作品とのこと。これも1つの「夢」。▼また、NPO法人三浦半島生物多様性保全は休耕田を復活させ、そこに地元小学生だけでなく、他都市からも農業体験の輪をつないでいる。それ以外にも、西地区的若い農業者が集う若耕人‘S(わこううず)’はトマトやにんじんなど横須賀の農産物を魅力的なものにする工夫しながら栽培から販売へと展開している。ここにしかない体験やおいしいものを作り出すとも大切な「夢」のひとつ。▼きっと「夢」の答えは、私たちひとりひとりの中にあるはず。「夢」は誰かがくれるものではなく、ひとり一人描くもの。「ああすればもっと良くなる」、「こんなことができたらいい」、そういう願いを「みんなの夢」につなげることができたら、きっと素敵なことだなあと思う。

※武山町内会より、上記のタイトルで寄稿の依頼があり、2018年11月号

の町内会誌に掲載されたものです。

